

Industri. 17) ROEPKE, W. (1916) über einige weniger bekannte, kulturschädliche Lepidopteren auf Java. Tijdschr. Entomol. 59 : 1-17. 6 pts. 18) UBAIDILLAH, R. & M. AMIR, 1987. Serangga hama penggerak batang *Albizia falcataria* (L.) Fosb. dan variasi tipe serangannya. Suppl. Ber. Biol. 3 : 66-69. 19) THO Y.P., 1990. Forestry entomology in reference to plantation forestry in the Asia-Pacific Region—an overview. pp. 2-8. In Hutacharern, C., K.G. MacDicken, M.H. Ivory & K.S.S. Nair (eds.) Proceedings of the IUFRO Workshop on Pests and Diseases of Forest Plantations. Bangkok.

図書紹介

◎熱帯のアグロフォレストリー (HUXLEY, P. 1999. Tropical Agroforestry. Blackwell Science Ltd., Oxford, 371 pp., 約 21,000 円)

アグロフォレストリーでは、技術的にはこれまでに様々な成果が出ているが、これらの成果を実際に現地農民や為政者が役立てることができるようにするソフトの部分が不十分である。熱帯地域を中心とする途上国では各種のアグロフォレストリーが現に行われているが、より効率的な方法を提供するためにはまだ研究や試行の要請が強い。著者は園芸分野の専門家であるが、主にアフリカを中心に ICRAF[International Council (現在は Centre) for Research in Agroforestry]で 1979～1992 年までアグロフォレストリーに携わり、作物から樹木にわたる園芸を超えた幅広い研究と現地適用試験を展開してきた。この間、多くの著作を発表しており、その集大成が本書である。本書は 1. アグロフォレストリーの本質と必要性、家畜の利用、水土保全、2. 木本植物-作物混合利用の様々な形態と機能、混作下の環境資源の植物による利用方式とアグロフォレストリーのための賢い適用、3. 樹木の狭間 (interface) という条件の本質と特質の概要および競争と相互の助け合い関係の適切な応用、4. 木本植物の組み合わせの有効性、地上部分と地下部分/根系の挙動、共生土壌微生物、苗畑技術、5. 樹木が作る環境、養分循環、持続的土地利用のための持続の考え方の検討、6. アグロフォレストリー研究のための一層の工夫や考え方の提言、実行上における厳密性と弾力性の按配加減の必要性、という 6 つの部分で組み立てられている。多くの写真や図、データなどがちりばめられていて、理解を助けてくれる。冒頭で、「アグロフォレストリーでは people が鍵となる要素であることを思い起こすべきであり、生物学に傾斜しがちなアグロフォレストリーに対して socio-economic aspect の重要性を強調したい」と述べている。これらの地域で森林造成に携わる人には基本常識を深めるものとして、また参考書として使える本であろう。(櫻井尚武)